

2. 事業の概要と成果

(1) プロジェクト 目標の達成度 (今期事業達成目標)

上位目標「トリンコマリー県内の再定住地域において、帰還民の収入向上と収入の安定により持続可能な生計が立てられる。」において「収入向上」による持続可能な生計向上に着目した場合、受益者の各農業活動における平均収入は、事業開始前と開始後では図表1のような結果が出ている。

図表1) 事業開始前後における平均収入

事業内容	2018/2019 年 事業開始前/直後の 平均収入 (月収換算)	2020/2021 年 事業終了後の 平均収入 (月収換算)	事業前後の 平均収入差異 (月収換算)
小規模貯水池の修復	Rs.119,947 (3.7ヶ月分)	Rs.164,956 (5.1ヶ月分)	Rs.45,009 (1.4ヶ月分)
農業用井戸の設置	-	-	-
OFC 栽培の導入	-	Rs.13,432 (0.4ヶ月分)	Rs.13,432 (0.4ヶ月分)
オーガニック栽培の導入	Rs.21,063 (0.6ヶ月分)	Rs.53,218 (1.6ヶ月分)	Rs.32,155 (1.0ヶ月分)

これらの平均収入の結果を踏まえ、スリランカ中央銀行・社会経済データ 2016 年版より参照した東部州の中間層の平均月収 Rs. 32, 621¹を基準に月収換算して比較したところ、小規模貯水池の修繕による稲作の収入では平均 1.4 ヶ月分、OFC 栽培の導入では 0.4 ヶ月分、オーガニック栽培では 1.0 ヶ月分の収入向上へ貢献できたことが分かる。農業用井戸においては 2021 年ヤラ期（乾期）の OFC 栽培等による収入向上が期待されている。ただ本事業地は中低及び低所得層の居住地域であるため、実際の収入向上への貢献度はこれよりも大きいことが予想される。また、「収入の安定」による持続可能な生計向上に着目した場合、OFC 及びオーガニック栽培の導入を通じて、稲作に依存した収入構造から生産作物を多様化させることで、収入源を多元化し、リスクを分散させることにより、急激な気候変動や稲作の不作、経済不調による輸入規制等に耐えられるレジリエンスの強化に貢献できた。

農業水利施設 7 施設の修復および、米以外の農作物の導入支援

(2) 事業内容

1-1) 小規模貯水池と用水路の修復

活動 1) 農業水利施設（小規模貯水池、農業用水路、農業用井戸）の修復と設置

小規模貯水池の各種設備と農業用水路の修繕を事業期間内に全て完了した。施工過程においては、雨季の早期到来により地盤が水分過多でゆるくなり、堤防の転圧（締め固める作業）を進めるにあたり地盤を乾燥させる時間を要したこと、貯水池側の水門の修繕を進めるために入水を防ぐ堰を作る必要があったこと、加えて COVID-19 の行動規制による工事中断及び重機搬入規制等、様々な要因により幾度となく作業中断や戻り作業を迫られた。しかし、そうした工事の遅延に対しても主体的に修繕へ参画した農民の貢献によって着実に進捗し、計画した各小規模貯水池設備（堤防、水門、洪水吐等）及び農業用水路の修繕を完工した。各工事は進捗状況に

¹ Central Bank of Sri Lanka, [SRI LANKA SOCIO ECONOMIC DATA 2019](#) 25 ページ東部州中間層における平均月収を参照。

応じて農業開発局トリンコマリ事務所の担当技術者及び技術補佐、各郡の農業開発局員による定期的なモニタリング及び堤防の盛り土の土質試験、堤防の圧縮強度試験等を通して品質が確保され、土地問題等が発生した際は、各郡事務所の郡書記官及び土地管理担当、各村落担当官の指示に従って対処した。また、PWJ エンジニアより各種設備維持管理のためのメンテナンス方法等を組合員へ指導した。

1-2) 農業用井戸の設置

7 箇所中 4 箇所においては当初の計画通り農業用井戸を建設した。また、下記 3 箇所においては、土地の状況に応じて十分な揚水量が確保できるよう臨機応変に対応した。建設場所の選定においては、農業開発局トリンコマリ事務所の次長、担当技術者及び技術補佐、地域の農業開発局員による指導・監督の下、稲作に影響の出ない適切な設置場所を選定した。

全ての農業用井戸及び管井戸建設は乾期の地下水量が低下するピーク時に掘削し、乾季に農業灌漑として活用するために十分な揚水量の確保が可能なことを確認した上で建設した。

・アダンジャラカッタクラム

当初計画通り小規模貯水池付近にて掘削したところ、塩水が湧いたため、同組合に属する以前井戸掘削実績があり、真水を取水できた別の場所へ変更して建設した。

・コンバンクラム

小規模貯水池からの配水が高低差の関係上困難な高地に、当初計画した規模の半分の直径の井戸を 2 基建設した。

・アティヤンディクラム

農業用井戸の試し掘り実施後、適切な帯水層発見に至らなかったため、近隣住民が保有する管井戸の揚水実績値より農業用として活用可否を判断し、管井戸 2 本を建設した。

提供した揚水ポンプのメンテナンス指導はポンプメーカーより担当者を招いて農民へ指導を行った。

活動 2) 米以外の作物栽培の導入

2-1) 米以外の穀物・豆類等（以下 OFC: Other Field Crops）栽培の導入促進

農業局の各地域を管轄する農業普及指導員より OFC の栽培研修を実施し、受講した農民に対して OFC 種子の配布を行った。研修は OFC 種子配布後の適作期とされる雨季と乾季の端境期の直前に行い種子を配布したが、COVID-19 の感染拡大と重なり、外出禁止令が施行されたため、多くの農家が適切なタイミングで OFC 栽培を開始できなかった。当初の計画では大規模な灌水が可能な小規模貯水池付近や農業用井戸付近で栽培が計画されていたが、外出規制により家屋付近での小規模な栽培または栽培開始時期を延期せざるを得ない状況となった。規制が緩和し、自由に外出できる頃には、本格的な乾期に入り、灌漑水の確保が難しい状況となっていた。乾期でも灌漑水を確保できる一部農家においては保管した種子を用いて、栽培が行われた。

2-2) オーガニック栽培の導入促進

受益者の選抜においては、対象農民組合の組合員が居住する地域の住民に幅広く募集活動を行い、オーガニック野菜の栽培を希望する農家に対してインタビューを行い、農地の個別訪問調査を実施し選出した意欲的な農

家を対象とした。選考においては、寡婦、障がい者、脆弱なカースト、近年インドからの帰還民等の特別な境遇にある農民は優先的に選出した。また、Good Market 有機野菜認証取得に対するアウェアネス・トレーニング、初回のオーガニック野菜栽培研修とエクスポージャービジットの3つのプログラム全て参加した農民を最終的な支援対象有機農家とした。上記条件で選出した農民に対して、その他のオーガニック野菜栽培研修、営農支援トレーニング等を実施し、野菜栽培種子、コンポストヤードや小規模灌漑設備・農機具等の有機栽培補助用具、鳥獣被害対策フェンス等の機材支援を行った。機材の提供にあたっては、有機認証の評価項目に着目し、有機認証で推奨される土壌の生物多様性向上や節水等の規定に準拠し、且つ機材供与によって新しい技術やノウハウを体験的に理解できるような用具を供与した。

COVID-19 の影響により当初計画した有機農業専門家の派遣は中止となった。また、外出禁止解除後もトレーニング等の集会に人数制限が掛けられたため、小規模グループでの実地研修に切り替えて継続した。それに伴い事業期間内の実施が困難となった一部営農支援トレーニング及び営農計画トレーニングフォローアップコンサルテーションは次年度事業へ持ち越すこととなった。

(3) 達成された成果

1. 農業水利施設の適正な運用が可能になる。

1-1) 小規模貯水池および用水路の修復工事により、灌漑用の水の貯水量が増加することで耕作可能な面積と期間が広がり、農作物の収量が増える。また貯水池と用水路を農民組合が適正に維持管理していく。

指標 1-1) 小規模貯水池および用水路の整備によって耕作可能面積が約 370 エーカーから 1.5 倍以上に増え、雨季の米の収穫量が 20%以上増える。

小規模貯水池及び用水路の修復工事により、耕作可能面積の拡大及び雨季の米の収穫量の増進に下記の通り貢献することができた。

表 1：指標 1-1) 2018 年、2020 年度の耕作可能面積の比較

小規模貯水池の名称	2018 年度 耕作可能面積	2020 年度 耕作可能面積	増加率 (指標達成度)
アダンジャラカッタナラム	141.25 エーカー	167.00 エーカー	18.2%
コンバンクラム	25.50 エーカー	128.00 エーカー	402.0%
カラディヤナウエフ	37.25 エーカー	47.50 エーカー	27.5%
アッティヤディクラム	0.00 エーカー	30.00 エーカー(予定)	- %
ヴェッパンクラム	62.8 エーカー	90.25 エーカー	43.7%
コッティヤツカルクラム	39.00 エーカー	67.00 エーカー	71.8%
ペリヤモッタヤンディクラム	68.50 エーカー	127.35 エーカー	85.9%
合計	374.30 エーカー	657.10 エーカー	75.6% (+ 151.2%)

尚、アッティヤンディクラムは、本事業で計画されていた貯水池の修繕工事は無事完了したが、事業開始時には農地も完全に草木に覆われていたため、修繕完了後に農地を回復するために草木を伐採する必要があった。しかし、Covid-19 の影響等により伐開許可証の取得の承認手続きに遅延が生じており、2020 年のマハ期（雨季：2020 年 10 月～2021 年 3 月）には間に合わなかった。このため、表 1 では開墾面積は約 30 エーカー（予定）となっており、表 2、表 3 においても 0 という結果になっている。しかし、完全荒廃していた貯水池が修繕により十分な貯水が可能となったため、

2021 年度ヤラ期（乾期：2021 年 4 月～2021 年 9 月）には米や OFC の栽培も計画されており、2021 年のマハ期（雨季：2021 年 10 月～2022 年 3 月）には開墾される 30 エーカーからの米の収穫が期待される。

表 2：指標 1-1) 2018 年、2020 年度マハ期（雨季）の米の収穫量の比較

小規模貯水池の名称	2018 年度 収穫量	2021 年 2 月 収穫見込み	増加率 (指標達成度)
アダンジャラカッタナクラム	3,527 袋	4,248 袋	20.4%
コンバンクラム	929 袋	3,256 袋	250.5%
カラディヤナウェワ	1,151 袋	1,208 袋	5.0%
アッティヤディクラム	- 袋	- 袋	- %
ヴェツパンクラム	2,226 袋	2,296 袋	3.1%
コッティヤツカルクラム	703 袋	1,704 袋	142.4%
ペリヤモッタヤンディクラム	2,571 袋	3,240 袋	26.0%
合計 (1 袋=68kg)	11,107 袋	15,952 袋	43.6% (+ 218.0%)

2019 年においては 10 月中旬より、降雨による工事の中断を強いられ、土壌水分量の増加に伴い堤防への転圧工程における作品の品質に配慮し作業中断を指示した。このため、2019 年のマハ期（雨季）における米の収穫量に見られた成果は中間報告で報告した通り、一部においてのみ収量増進が見られた。全体の耕作面積としては約 75.6% (1.756 倍) 増え（指標達成度：+151.2%）、雨季の米の収穫量は 43.6%増加した（指標達成度：+218.0%）。施工完了後の 2020 年のマハ期（雨季）の稲作における作付け開始時期は 10 月となっており、収穫は 2021 年の 2 月を見込んでいる。このため、本指標においては、「耕作可能面積」は、2020 年度のマハ期（雨季）に実際に作付けを行った土地の総面積とし、「米の収穫量」は 2020 年度のマハ期（雨季）の作付面積に統計調査局が集計した 2018 年トリンコマリー県の小規模貯水池における 1 エーカー当たりの平均収穫量を基に算出している。² 現在、順調に小規模貯水池への貯水が進んでいることを考えると表 3 の通り、総収入の向上への貢献も大いに期待できる。なお、実際の米の収穫量については、次年度の中間報告の際に 2021 年 2 月の実際の収穫量を合わせて報告する。

² DEPARTMENT OF CENSUS AND STATISTICS, [PADDY STATISTICS: 2018/2019 MAHA SEASON](#) 7 ページ・AVERAGE YIELD (BUSHELS PER NETT ACRE)を参照。1 エーカー辺り 25.44 袋／エーカーで算出。

表 3：指標 1-1) 2018 年、2020 年度 マハ期（雨季）の米による収入

小規模貯水池の名称	2018 年 総収入	2020 年 ³ 総収入見込み	2018-20 増加率
アダンジャラカッタナクラム	Rs.7,707,800	Rs.10,621,200	37.8%
コンバンクラム	Rs.1,338,964	Rs.8,140,800	508.0%
カラディヤナウェワ	Rs.2,855,200	Rs.3,021,000	5.8%
アッティヤディクラム	Rs.0	-	- %
ヴェッパンクラム	Rs.3,630,754	Rs.5,739,900	58.1%
コッティヤツカルクラム	Rs.1,406,000	Rs.4,261,200	203.1%
ペリヤモッタヤンディクラム	Rs.2,917,556	Rs.8,099,460	177.6%
合計	Rs.19,856,274	Rs.39,883,560	200.9%

近年、収穫期を迎えるマハ期（雨季）後半における降雨量が減少傾向にあり、十分な稲穂を付ける前に灌漑水が枯渇し、収量低下の問題に直面していたが、小規模貯水池及び農業用井戸の設置により、収穫期直前の灌水にも大きな貢献を果たすことが可能となる。

また、周囲の小規模貯水池との連携に関して、他県の JICA 事業でも推奨していた複数の小規模貯水池の連結性⁴を意識した施工を行った。それによりヴェッパンクラムにおいては、灌漑省本部より職員がムトゥール郡を訪問した際、地域における連珠型のモデル貯水池として高い評価を受けた。コンバンクラムにおいては、トリンコマリー県全域における最も優れた小規模貯水池の修繕工事作品を決めるコンペティションにて、一般施工業者を差し置いて、修繕に取り組んだ農民組合が第 2 位を受賞した。事業終了後 12 月現在においては、各小規模貯水池にて順調に貯水が進んでいる。満水した貯水池も想定通りに洪水吐より排水が行われ、他の農家が冠水することなく想定通り経路を辿り適切に排水処理されている。

1-2) 小規模貯水池の近辺に設置された農業用井戸で乾季にも灌漑ができるようになる。

指標 1-2) 農業井戸の整備により、乾季の耕作可能面積が全体で 39 エーカーから、合計で 21 エーカー 以上増え、全体で 60 エーカー以上となる。

農業用井戸の整備により、表 4 の通り乾期の耕作面積拡大に貢献した。

表 4：指標 1-2) 井戸の設置により増加した耕作面積

小規模貯水池の名称	耕作面積の増減	指標達成度
アダンジャラカッタナクラム	+ 8.0 エーカー	270 %
コンバンクラム	+ 5.5 エーカー	180 %
カラディヤナウェワ	+ 6.0 エーカー	200 %
アッティヤディクラム	+ 2.5 エーカー	80 %
ヴェッパンクラム	+ 11.0 エーカー	370 %
コッティヤツカルクラム	+ 5.0 エーカー	170 %
ペリヤモッタヤンディクラム	+ 14.0 エーカー	470 %
合計	+ 52.0 エーカー	+ 250 %

³ 表 3 のマハ期（雨季）の米による収入の算出方法は、トリンコマリー県で最も一般的な長粒米キール種の 1 袋辺りの平均卸単価 Rs.2,500/袋を基に算出。実際は、農家が選定する米の品種により単価は異なるが、キール種より取引単価が最も低い品種となっている。

⁴ JICA によりアヌラダプラ県およびワウニア県で 2018 年まで実施されていた事業「北中部乾燥地域における連珠型ため池灌漑開発計画策定プロジェクト」。開発対象として連珠型ため池灌漑を推奨し、灌漑開発の計画策定支援を行った。

農業用井戸が建設される前は、小規模貯水池下の高地は高低差により用水路を通じての配水が困難であり、遊休地として休ませるほかなかったが、現在は乾期も耕地を活用できるようになった。井戸の設置により増加した耕作面積としては、合計で 52.0 エーカー（指標達成度：+250.0%）増加し、乾期にも灌漑ができるようになった。

また、OFC 栽培等を行うことで副収入を得ることができ、OFC 栽培等による土壌養分の向上（根粒菌による土壌中の窒素固定等）により、雨季の稲作収量増進への効果も期待されている。また、特に脆弱なカーストの住民が多く居住するアッティヤディクラムにおいては、管井戸の掘削によって農業に活用できる十分な揚水量を確保すると共に、乾期のピーク時には生活用水としても活用され地域住民の生活に副次的効果をもたらした。コンバンクラムにおいてはトリンコマリー県のムスリムの中でも特に脆弱層が土地を保有しており、井戸の建設によって乾期の OFC 栽培が実現し、生計向上へ大きく貢献できた。

2. 米以外の収入源の確保。

2-1) 米以外の穀類・豆類等の OFC 栽培導入により副収入を得る。雨期の間は稲作が主となるが、乾期において穀類豆類等の OFC が導入されることで、栽培作物が多様化され、収入構造を複数にすることで、天候変動や市場変動の際もリスクを回避され、米以外の作物からの収入が得られるようになり、生計の安定化に寄与することができる。

指標 2) 米以外の農作物から平均 15,000 ルピー以上の副収入を得られる。

指標 2-1) 各小規模貯水池に土地を持つ農民約 400 世帯の約半数の 200 世帯以上の農家に OFC 栽培の種子を配布し、栽培を導入する。

2020 年 2、3 月頃の雨季と乾期の端境期に栽培開始を計画し、各小規模貯水池に土地を持つ農家全 238 世帯中 183 世帯の農家へトレーニングを提供した。しかし、配布直後に COVID-19 のパンデミックにより外出禁止令が施行されたため、種子を確保していたが適作期に関わらず栽培開始できない農家も多く見られ、最終的に 132 世帯へ OFC 栽培種子の配布を行った。

表 5：指標 2) 米以外の農作物からの収入 (OFC 実践農家)

小規模貯水池名称	2019-20 年における	
	米以外の農作物からの平均副収入 *提供した OFC 種子からの副収入	指標達成度
アダンジャラカッタナクラム	-	-
コンバンクラム	Rs.19,577	130.0%
カラディヤナウエワ	Rs.19,412	129.4%
アッティヤディクラム	Rs.2,092	13.9%
ヴェツパンクラム	Rs.10,955	73.0%
コッティヤツカルクラム	Rs.18,058	120.4%
ペリヤモッタヤンディクラム	Rs.10,500	70.0%
平均	Rs.13,432	89.5%

表 6 : 指標 2-1) OFC 栽培導入農家数

小規模貯水池名称	OFC 栽培導入農家数／ 小規模貯水池に土地を 持つ農家数	割合 (指標達成度)
アダンジャラカッタナクラム	0／43 世帯	0%
コンバンクラム	39／42 世帯	92.9%
カラディヤナウエワ	17／17 世帯	100.0%
アッティヤディクラム	11／46 世帯	23.9%
ヴェツパンクラム	22／42 世帯	52.4%
コッティヤツカルクラム ⁵	20／15 世帯	133.3%
ペリヤモッタヤンディクラム	23／33 世帯	69.7%
合計	132／238 世帯	55.5% (+111.0%)

アダンジャラカッタナクラムにおいては、2019 年雨季の小規模貯水池への貯水ができなかったこと、COVID-19 の影響で適作期に外出禁止令が施行されていたこと等の要因により、OFC 栽培の灌水に必要な最小限の灌漑水も確保できず、組合との協議の結果 OFC 栽培を断念するに至った。

外出禁止令施行中は、本来農作業は許可されていたが、トリンコマリー県の小さな村などでは、たとえ農作業であっても、外出を見つかっただけで見回りの軍人や警察によって、こん棒等で殴打されるなどの肅清が行われる事例が支援地域で見られた。このため、小規模だが家庭菜園規模での栽培実施を推奨し、家庭菜園規模の農家も OFC 栽培実践農家として集計した。この結果、OFC 栽培導入農家数としては、238 農家中 132 農家が OFC 栽培を導入（指標達成度：+111.0%）できたが、副収入としては平均 Rs. 13, 432（指標達成度：+89.5%）と指標達成に至らなかった。

また、ムトゥール郡に属するアッティヤディクラム、ヴェツパンクラム、ペリヤモッタヤンディクラムの収入が伸び悩んだ要因としては、干ばつによる影響が大きく灌漑水を十分に得られる時期に栽培開始できなかったことが指標未達成の大きな要因となる。特に脆弱なカーストの人々が大多数を占めるアッティヤディクラムにおいては外出禁止令施工中に他地域と比べ特に厳しい規制を強いられたためほとんどの農家で OFC 導入が叶わなかった。感染拡大が収まった乾期中後期でも灌漑水が得られた農家に関しては、OFC 栽培を実践することができた。

2-2) オーガニック栽培として、付加価値をつけて販売することで副収入を得る。研修を通して、農家が実践を通して化学肥料や化学農薬を使用せず、十分な収量を確保できる効率的な農法を理解し、市場に出せるだけの生産量を確保し、政府農業局が運営する食堂や県事務所で販売を開始して収入を得ることで、生計の安定化に寄与するとともに、オーガニック栽培による野菜等が十分市場で優位性をアピールでき、販売が可能であることを農民が理解する。

指標 2) 米以外の農作物から平均 15, 000 ルピー以上の副収入を得られる。

指標 2-2) 各 7 つの組合において、20 世帯の農家を選抜し、合計 140 世帯に研修を実施し、内 10%（14 世帯）以上の農家がオーガニック栽培も実践する農家となる。

各 7 つの組合において、組合を構成している村落に対し広く募集をかけ、

⁵ 小規模貯水池に土地を持つ農家数を OFC 栽培導入農家数が上回っているのは、同組合内の農民で土地を持たない小作人が地主より土地を分け与えられて OFC 栽培を実践したため。

オーガニック栽培の実践に意欲的な 142 世帯の農家を選抜し、研修を実施した。活動内容で前述した通り、トレーニングへの参加条件等で農家の選抜を強化したことにより、トレーニングへの参加率はどれも高い水準であった。

表 7：指標 2) 米以外の農作物からの収入(有機農業実践農家)

小規模貯水池名称	2019-20 年における 有機農作物からの平均副収入 (指標達成度)	指標達成度
アダンジャラカッタナクラム	Rs.47,028	313.5%
コンバンクラム	Rs.40,224	268.2%
カラディヤナウエワ	Rs.50,284	335.2%
アッティヤディクラム	Rs.29,343	195.6%
ヴェッパンクラム	Rs.123,991	826.6%
コッティヤツカルクラム	Rs.47,491	316.6%
ペリヤモッタヤンディクラム	Rs.34,164	227.8%
平均	Rs.53,218	354.8%

表 8：指標 2-2) オーガニック栽培の実践農家数

小規模貯水池名称	オーガニック実践農家数／ 当初参加農家数	割合 (指標達成度)
アダンジャラカッタナクラム	9／19 世帯	47.4%
コンバンクラム	13／15 世帯	86.7%
カラディヤナウエワ	19／21 世帯	90.5%
アッティヤディクラム	10／14 世帯	71.4%
ヴェッパンクラム	11／20 世帯	60.0%
コッティヤツカルクラム	23／34 世帯	67.6%
ペリヤモッタヤンディクラム	19／19 世帯	100.0%
合計	104／142 世帯	73.9% (+739.0%)

最終的に意欲のあるオーガニック実践農家 104 世帯が（73.9%／指標達成度：+739.0%）事業 1 年次終了時までオーガニック農業を継続し、平均収入は Rs. 53,218（指標達成度：+354.8%）であった。

大部分のオーガニック農家は、生産体制としては気候の影響もあり、まだ安定はしていないが、ある程度市場へ定期的に卸せるほどの生産量を確保できるようになってきている。慣行農業を並行して実践する農家においては既存の慣行農業にもオーガニック要素を導入する動きも進んでいる。

図 1：2019-20 年度 オーガニック農業による総収入と慣行農業による農業全体（稲作を除く）の総収入の割合

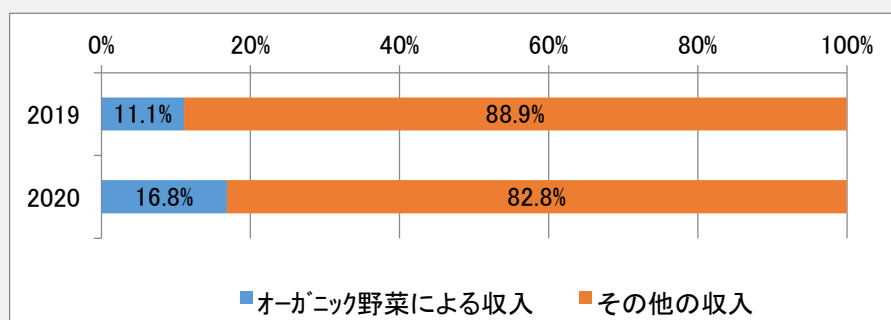


図 1 は、各農民グループのオーガニック農家世帯におけるオーガニック野菜による収入とその他の収入が占める割合を示している。稲作や漁業等のメインの収入源に加えてオーガニック野菜による副収入が各世帯の生計向上及び安定へ微力ながら寄与することができた。

また、営農支援トレーニングにおけるマーケティング実地演習では、乾期で農業に使用できる農業用水に制限があり栽培が限られる中、各郡事務所前や政府農業局が運営する食堂等で行った直売会へ参加し、どの直売会場でも全体の 9 割以上を完売し、地域における高い販売ニーズを改めて認識する機会となり、今後は地元のマーケットへの展開も期待される。

2 年次以降は有機認証取得の支援を進め、オーガニック野菜の製品価値と市場の拡大により更なる収入の向上と安定が見込まれる。

「持続可能な開発目標(SDGs)」に該当する目標における成果

目標 1：あらゆる場所であらゆる形態の貧困に終止符を打つ

ターゲット 1.5：2030 年までに、貧困層や脆弱な状況にある人々の強靱性（レジリエンス）を構築し、気候変動に関連する極端な気象現象やその他の経済、社会、環境的ショックや災害に暴露や脆弱性を軽減する。

本事業地域は内戦帰還民の再定住地域であり、スリランカ国内においても特に脆弱性の高い人々が居住している。その中でも民族バランスに配慮しつつ特に脆弱なカーストコミュニティ、再定住者の多い地域、腎臓病罹患率の高い人々の居住地域等を選定している。そういった脆弱性の高い人々のレジリエンスの構築及び気候変動の影響下での暴露や脆弱性軽減に貢献した。

目標 12：持続可能な消費と生産のパターンを確保する

ターゲット 12a：開発途上国に対し、より持続可能な消費・生産形態の促進のための科学的・技術的能力の強化を支援する。

有機農業普及事業を通じて、農薬や化学肥料といった人の健康や環境への悪影響をもたらすものを、全て自然由来の自然農薬やコンポストなどに置き換え、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を軽減し、持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに関する意識を持つように事業を通じて農民へ働きかけた。

目標 13：気候変動とその影響に立ち向かうため緊急対策を取る

ターゲット 13.1：全ての国々において、気候関連災害や自然災害に対する強靱性（レジリエンス）及び適応の能力を強化する。

近年、スリランカは気候変動の影響による干ばつ及び局所豪雨による洪水被害に見舞われている。農業用水利用施設の修繕・建設により、干ばつ

	対策として生活用水や農業用水の確保、洪水対策として堤防決壊や洪水吐からの排水が通る洪水路の氾濫等による農作物への対策強化が行われ、自然災害に対するレジリエンス及び適応能力の強化に貢献した。
(4) 持続発展性	農業用水利用施設の維持・管理にあたっては、全ての工事が農民組合の主体的な参画の下で行われたため、修繕に用いた機材及び資材等の調達方法や設備構造を農民自身が体験的に理解できた。それにより事業終了後に再度修繕が必要となった際も、本事業で培われたノウハウを活かして組合員らが自ら維持・管理を行っていくことができる。 オーガニック栽培の普及促進においては、本事業でトレーニングやコンサルティングを提供する過程で、各地域を管轄する農業普及員と農民との間で連絡体制が確立され、事業終了後も継続的に助言を受けられる体制が整えられた。(事業以前は農業普及員より訪問されなかった地域も認知されるきっかけを得た) また、オーガニック栽培農家においては、事業2年次も引き続きフォローアップを継続し、Good Market のオーガニック認証取得を支援していく。地元での安定的なオーガニック作物の普及を目指すと共に、主要都市でのオーガニックの認可を受けた高付加価値商品としての販路拡大の可能性も模索していく。また、スリランカ政府による地域農家向け有機認証制度の設立に向けた動きがあるとトリンコマリー県農業局次長より情報を得た。Good Market のオーガニック認証担当者へ問い合わせたところ、行政側の認証設立担当者とオーガニック認証に関する打ち合わせを既に何度も実施しているとのこと。政府としても同認証を取り入れる方針であることは、認証制定後のスムーズな切り替えが可能となり、有機農家への定期フォローアップと認証取得支援が農業局職員の公務となることが期待される。今後も設立への動向に注視し情報収集に努めていく。 大統領より5年以内に農薬及び国内生産が可能な主要16品目のOFC及び野菜類の輸入を完全に禁止する方針が示された。今回のCOVID-19の一件で完全に輸入に依存した慣行農業が受けた影響を危惧したためかと思われる。本事業全体が国の方針と合致しているため、引き続き行政との連携を高め、持続発展性を強化していく。